

令和 3 年 8 月 23 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18H00825

研究課題名(和文) 第一次世界大戦中・戦後の日中関係と東アジア国際秩序：対華二十一カ条要求の波紋

研究課題名(英文) Sino-Japanese Relations and the International Order in East Asia during and after the First World War: The Impact of the Twenty-one Demands

研究代表者

奈良岡 聡智 (Naraoka, Sochi)

京都大学・公共政策連携研究部・教授

研究者番号：90378505

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、第一次世界大戦中から戦後にかけての日中関係と東アジアの国際秩序の変容を、「対華二十一カ条要求の波紋」という視点を軸として解明したものである。「日中対立の原点」として知られる同要求については、従来多くの研究が蓄積されてきたが、日中両国内の国内政治・世論の多元性が必ずしも十分に踏まえられず、同要求の及ぼした国際的影響についても、なお検討の余地が残されている。本研究はこれらの克服を目指し、国内外での一次史料の調査に基づいて、実証的・多面的検討を進めた。その成果は、学術論文、一般書、学会発表などの形で既に公表した他、2021年度にも海外学会でのパネル開催、一般書の公刊を予定している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果は、主に日本語の学術論文の形で公表した他、海外発信も心がけ、英語や中国語での論文発表、外国大学での講演、海外学会でのパネル開催を行なった。また、『日本政治外交史』『決定版日中戦争』『大正史講義』などの書籍を刊行し、他分野の研究者や一般にも分かりやすい形で研究成果の普及を図った。さらに、「ポール・ラインシュ文書」や第一次世界大戦期の抑留者の手記など新たに発掘した資料を紹介する論文を刊行し、本テーマに関する研究を今後促進するための資料的基盤の強化に努めた。

研究成果の概要(英文)：This study examined the changes in Sino-Japanese relations and the international order in East Asia during and after the First World War from the perspective of the "impacts of Japan's Twenty-One Demands on China in 1915". Although a great deal of research has been conducted on the Twenty-One Demands, which are known as the "starting point of the confrontation between Japan and China," the diversity of domestic politics and public opinion in the two countries has not always been fully taken into account, and the international impact of the demands remains to be examined. In order to overcome these problems, this study has made a multifaceted investigation based on the survey of primary historical documents at home and abroad. The results of this research have already been published in the form of academic papers, general books, and conference presentations, and we are planning to hold panels at overseas conferences and publish general books in 2021.

研究分野：日本政治外交史

キーワード：二十一カ条要求 第一次世界大戦 日中関係 東アジア国際関係

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

1915年に日本が中国に突きつけた二十一カ条要求は、日中関係を一挙に悪化させた「日中対立の原点」として知られる。既に多くの研究が蓄積されてきたが、今なお不十分な点は少なくない。第一に、従来の研究は、日中両国内の国内政治・世論の多元性を十分に認識せず、その後の日中対立を単線的に描きがちであった。第二に、同要求が欧米列強に及ぼした国際的インパクトが、十分に分析されてこなかった。

本研究では、こうした問題点を克服し、この時期の一大外交問題であった二十一カ条要求問題を包括的・実証的・多面的に解明することを目指した。中国の自立化、英米の中国問題への関与の仕方の動揺などの点で、この時期の東アジア国際秩序は現代のそれと類似するところが少なくない。現代まで東アジアの国際秩序を規定する歴史的構造を明らかにし、この地域の将来を見通すための手がかりを提示するというのが、本研究が企図するところである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、第一に、第一次世界大戦が東アジアに及ぼしたインパクトを検証することであった。第一次世界大戦は、欧米では「現代史の起点」「長い20世紀の始まり」として重視され、膨大な研究蓄積があるが、東アジアとのかかわりについては研究が手薄で、従来の研究は、個々の事件史(二十一カ条要求、シベリア出兵、西原借款など)または二国間関係史という形で行われるのが普通であった。本研究が焦点を当てる二十一カ条要求についても、日中関係史という文脈の中で、その後の日中対立の源流を探るという視角でなされたものが多い。これに対して本研究は、第一次大戦全体の推移、大戦中から戦後にかけての東アジア国際秩序の変容全体を視野に収めて、同要求をめぐる諸問題を総合的に検討した点に特徴がある。そのため分析対象は、同要求に基づく外交交渉が行われた1915年1-5月に局限せず、大戦中から戦後にかけての同要求をめぐる諸問題(例えば同要求の策定と並行して進められた在ヨーロッパ日本人の抑留問題、第一次世界大戦中における明治維新・戊辰戦争の周年行事や歴史認識問題)を分析した。二十一カ条要求という大きな一つの問題を中心として、「東アジアにとって第一次世界大戦が持つ意味」を明らかにしたのが、本研究の大きな意義であったと言える。

第二の目的は、二十一カ条要求に関して、学際的研究によって多面的分析を行なうことであった。従来二十一カ条要求の研究は、日本史・中国史・欧米史、あるいはそれぞれの内政史・外交史を専攻する研究者が、それぞれの関係性や各言語の先行研究・史料状況を十分に意識しないまま行ってきた。これに対して本研究は、多言語を身につけ、マルチ・アーカイバルな手法で研究実績を挙げてきた研究者が協同し、一国史あるいは二国間関係史にとどまらず、国際関係史的な視点、外交・国内政治の連動を重視して研究を進めた点に特徴がある。

第三の目的は、外交、メディアと世論の「共振」関係を分析することであった。「二十一カ条要求」という名称が、中国の宣伝戦から生まれたことから分かる通り、同要求をめぐる外交交渉は「情報戦」でもあったが、その実態の解明はほとんど進んでいない。本研究では、二十一カ条要求をめぐる外交交渉について、メディア、世論との関係に焦点を当てながら分析を進めた。

3. 研究の方法

本研究では、海外の図書館、文書館や博物館で新たな一次史料を積極的に収集し、分析に活かすことに努めた。2020年度は、新型コロナウイルス感染症の発生のため海外調査ができなかったが、2018-19年度には以下の各機関で史料調査を実施した。サハリン州立文書館、ハイデルベルク大学図書館・文書館、香港歴史博物館(以上奈良岡)、ウィスコンシン歴史協会(奈良岡: 安田貴雅氏〔神戸大学大学院法学研究科博士後期課程〕の助力を得た)、台湾中央研究院台湾史研究所、米国国立公文書館(以上奈良岡、川島)、中国第二歴史档案館、国際赤十字文書館、国際連盟文書館(以上奈良岡、梶原)、英国国立公文書館(奈良岡、梶原、久保田)、大英図書館、オーストラリア国立公文書館・図書館、トロント大学トマス・フィッシャー・レアブック・ライブラリー(以上梶原)、スタンフォード大学フーパー研究所(川島)、国際赤十字文書館、国際連盟文書館、大英図書館、オーストラリア国立公文書館・図書館、中国・東南アジア研究所〔ウィーン〕(梶原)、英国国立公文書館(梶原、久保田)、ハーバード大学ベイカー経営学図書館、香港上海銀行文書館〔ロンドン〕(久保田)。

研究を進めるにあたっては、メールなどで連絡を密にすることを心掛けた。また、年数回研究会を開催し、本研究テーマに関わる研究成果を挙げている研究者を招聘して討議を行なった。開催した研究会は、以下の通りである。

〔2018年度〕

(1) Mercedes Penalba-Sotorrio氏(Manchester Metropolitan University 准教授)のスペイン内戦に関する講演会(2018年6月4日、京都大学)

(2) Torsten Weber氏(ドイツ日本研究所日本研究部長)の新著 *Embracing 'Asia' in China and Japan* の書評会(書評者: 呉舒平〔京都大学大学院法学研究科博士後期課程〕、2018年10月29日、京都大学)

〔2019年度〕

(1) Bruno Cabanes氏(Ohio State University 教授)の「戦間期における戦争被害者救済」

に関する講演会(2019年5月28日、京都大学)

(2) 全体研究会(2019年12月22日、京都大学): 報告 奈良岡「ラインシュ文書から見た対華21か条要求問題」、安田貴雅「辛亥革命を巡るアメリカ外交: ラインシュ文書からみた動態」、伊丹明彦(京都大学研修員)「日本のシベリア出兵・撤兵とアメリカ外交」

(3) ワークショップ「国際連盟研究の最前線」(2019年12月23日、京都大学): 報告 梶原克彦「シベリア出兵期の独逸捕虜問題」、赤見友子氏(オーストラリア国立大学准教授)「国際連盟と国際規範」、奈良岡聡智「書評: 帯谷俊輔『国際連盟』」

[2020年度]

書評研究会(2020年9月7日、Zoomによるオンライン、科研費メンバー以外の研究者を含め30名参加): 森靖夫『「国家総動員」の時代 比較の視座から』(名古屋大学出版会、2019年) 書評 書評者: 小林道彦氏(北九州市立大学教授)、リプライ: 森靖夫。 関智英『対日協力者の政治構想: 日中戦争とその前後』(名古屋大学出版会、2019年) 書評 書評者: 森靖夫氏(同志社大学教授)、リプライ: 関智英氏(津田塾大学准教授)。

4. 研究成果

以上の史料調査や研究会で討議などを踏まえつつ、各研究代表者・分担者において著書、論文を刊行するとともに、学会報告、講演などを行った。個別の論文、学会発表等については、後掲のリストに譲るが、特筆すべき成果、全体にかかわる成果としては以下が挙げられる。

(1) 奈良岡聡智他『日本政治外交史』(放送大学教育振興会、2019年)、川島真他『決定版日中戦争』(新潮新書、2019年)、久保田裕次他『日本史概説』(北樹出版、2020年)を刊行した他、筒井清忠編『明治史講義【人物篇】』(ちくま新書、2018年)、同『大正史講義』(ちくま新書、2021年)、文春新書編『昭和史がわかるブックガイド』(文春新書、2020年)に寄稿するなど、最新の研究成果を他分野の研究者や一般にも分かりやすい形で刊行したこと(奈良岡、川島、久保田)

(2) 第一次世界大戦期の抑留問題に関する史料(在ヨーロッパ日本人抑留者の各種手記)を発掘し、その翻刻論文を学術雑誌に連載したこと(奈良岡、梶原)

(3) 本科研で本格的に調査を行った「ポール・ラインシュ文書」につき、その概要を紹介する連載を学術雑誌で開始した(奈良岡、安田貴雅氏との共著、全3回を予定)

(4) 英語、中国語でいくつかの著書・学術論文を刊行したこと(奈良岡、川島、久保田)。このうち本科研メンバーが共同で執筆した著書としては、ドイツのポーフム大学で開催された国際シンポジウムの成果をもとにした以下の書籍が挙げられる。

Jan Schmidt, Katja Schmidt pott(eds.), *The East Asian Dimension of the First World War, Global Entanglements and Japan, China, and Korea, 1914-1919*, Campus Verlag

Naraoka Sochi, *Japanese Civilians in Germany at the Outbreak of the First World War* および Kubota Yuji, *Japanese Loan Policy to China during the First World War: Shoda Kazue and the Domestic Political Background of the Nishihara Loans* を寄稿

(5) 海外の国際学会等において積極的に研究成果を発信したこと(奈良岡、川島、梶原、久保田)。このうち、本科研メンバーが企画に関わり、共同で参加した学会パネルとしては、以下が挙げられる。

パネル企画「第一次世界大戦期の東アジアにおける捕虜・抑留者処遇問題」(第4回東アジア日本研究者協議会、2019年11月2日、台湾大学)

・梶原克彦(愛媛大学)「第一次世界大戦とオーストリア兵捕虜の処遇問題」

・奈良岡聡智(京都大学)「第一次世界大戦期ベルギーにおける日本人抑留者問題」

・Mahon Murphy(京都大学)「第一次世界大戦後の捕虜の本国帰還問題と日本: 1921年の平明丸事件」

討論者: 森靖夫(同志社大学)、菅原武志(愛媛大学)

パネル企画 *Competing Narratives on Sino-Japanese Relations, 1915-1945: Local, National, and International Exchanges* (EAJS: European Association of Japanese Studies, August 2021)

・Sochi Naraoka, *The Emergence of Japan's "Monroe Doctrine for Asia": stereotyped criticisms of the 21 Demands to China by the Japanese Media in 1915*

・Andrea Revelant (Ca' Foscari University of Venice), *Peripheral Voices for Foreign Policy: The Sino-Soviet Conflict of 1929 in the Local Press of Japan*

・Daisuke Shimada (Waseda University), *Cooperation between Japanese and Chinese journalists before the Second Sino-Japanese War: Ōta Unosuke(Asahi Shimbun) and Zhang Jiluan (Ta Kung Pao)*

・Shin Kawashima (The University of Tokyo), *Between Propaganda and Communication: The Role of Radio in the Sino-Japanese War*

3年間の研究活動の総まとめ的な意味を持つもので、2020年8月に開催予定であったが、コロナ禍のため開催が2021年8月(オンライン開催)に延期された。

(6) 公文書管理問題、歴史認識問題などに関して本プロジェクトの歴史研究の成果を踏まえて、政策提言の意味合いも持つ発信を行ったこと(奈良岡、川島)

なお、コロナ禍のため、2019年度末から2020年度にかけて予定していた海外調査やシンポジウムが軒並み中止され、本研究の成果公表も大きな制約を受けた。論文集や共著の刊行、シンポジウムの開催など、停頓を余儀なくされている研究成果公表については、2021年度以降に鋭意進めていく所存である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計36件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 奈良岡聡智	4. 巻 186巻5・6号
2. 論文標題 記憶としての明治維新 - 「明治五〇年」「明治一〇〇年」「明治一五〇年」記念事業を中心とした考察（二）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 法学論叢	6. 最初と最後の頁 72-106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 奈良岡聡智	4. 巻 -
2. 論文標題 第一次世界大戦と日中対立の原点	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 山内昌之・細谷雄一編著『日本近現代史講義：成功と失敗の歴史に学ぶ（中公新書）	6. 最初と最後の頁 91-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 梶原克彦・奈良岡聡智	4. 巻 47号
2. 論文標題 資料紹介 第一次世界大戦と在独日本人の抑留問題（一）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 愛媛大学法文学部論集 社会科学編	6. 最初と最後の頁 1-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 梶原克彦・奈良岡聡智	4. 巻 48号
2. 論文標題 資料紹介 第一次世界大戦と在独日本人の抑留問題（二）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛媛大学法文学部論集 社会科学編	6. 最初と最後の頁 33-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 梶原克彦・奈良岡聡智	4. 巻 48号
2. 論文標題 前田利為日記（一九一三年～一九一四年）（一）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛媛大学法文学部論集 社会科学編	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聡智	4. 巻 57巻5号
2. 論文標題 オーストラリアと日本・中国	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 公研	6. 最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聡智	4. 巻 57巻11号
2. 論文標題 海外の日本研究への支援強化を	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 公研	6. 最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川島真	4. 巻 -
2. 論文標題 1950年半ばの中国留日学生と日本国費留学生制度再開	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 孫安石・大里浩秋編著『中国人留学生と「国家」・「愛国」・「近代」』（東方書店）	6. 最初と最後の頁 37-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川島真	4. 巻 -
2. 論文標題 戦前期日本の「支那料理」受容 家庭での受容と「支那料理店」をめぐる状況	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 岩間一弘編著『中国料理と近現代日本 食と嗜好の文化交流史』（慶應義塾大学出版会）	6. 最初と最後の頁 285-312
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川島真	4. 巻 39巻2号
2. 論文標題 日本の歴史学界における台湾史研究の特徴について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『社会科学研究』（中京大学社会科学研究所）	6. 最初と最後の頁 181-185
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川島真	4. 巻 -
2. 論文標題 蘇州日本租界開設交渉 - 荒川巴次・黄遵憲の六条合意（1896年4月）への道程	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大里浩秋・内田青蔵・孫安石編著『東アジアにおける租界研究 - その成立と展開』（東方書店）	6. 最初と最後の頁 263-294
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保田裕次	4. 巻 -
2. 論文標題 第一次世界大戦期の対華国際借款団と日本外交	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 瀧口剛編『近現代の東アジア秩序と日本』（大阪大学出版会）	6. 最初と最後の頁 93-122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保田裕次	4. 巻 684号
2. 論文標題 書評：酒井一臣『帝国日本の外交と民主主義』（吉川弘文館、2018年）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 74-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保田裕次・久野洋・藤井崇史・安田貴雅	4. 巻 24号
2. 論文標題 書評：五百旗頭薫・奈良岡聡智『日本政治外交史』（放送大学教育振興会、2019年）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国土館史学	6. 最初と最後の頁 63-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Naraoka Sochi	4. 巻 -
2. 論文標題 Japanese Civilians in Germany at the Outbreak of the First World War	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Jan Schmidt, Katja Schmidtpott(eds.), The East Asian Dimension of the First World War, Global Entanglements and Japan, China, and Korea, 1914-1919, Campus Verlag	6. 最初と最後の頁 365-384
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kubota Yuji	4. 巻 -
2. 論文標題 Japanese Loan Policy to China during the First World War: Shoda Kazue and the Domestic Political Background of the Nishihara Loans	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Jan Schmidt, Katja Schmidtpott(eds.), The East Asian Dimension of the First World War, Global Entanglements and Japan, China, and Korea, 1914-1919, Campus Verlag	6. 最初と最後の頁 209-230
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聡智	4. 巻 14号
2. 論文標題 「明治五〇年」と「明治一〇〇年」のあいだ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 吉野作造研究	6. 最初と最後の頁 21-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聡智	4. 巻 -
2. 論文標題 岩崎弥太郎—三菱と日本海運業の自立	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 筒井清忠編『明治史講義【人物篇】』（ちくま新書）	6. 最初と最後の頁 299-315
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梶原克彦・奈良岡聡智	4. 巻 45号
2. 論文標題 資料紹介 第一次世界大戦と在澳日本人の抑留問題（三）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 愛媛大学法文学部論集 社会科学編	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聡智	4. 巻 184巻2号
2. 論文標題 記憶としての明治維新：「明治五〇年」「明治一〇〇年」「明治一五〇年」記念事業を中心とした考察（一）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 法学論叢	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梶原克彦・奈良岡聡智	4. 巻 46号
2. 論文標題 資料紹介 第一次世界大戦と在境日本人の抑留問題(四・完)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 愛媛大学法文学部論集 社会科学編	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聡智	4. 巻 56巻5号
2. 論文標題 公文書管理について思う	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 公研	6. 最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聡智	4. 巻 30巻6号
2. 論文標題 大久保利通の実像	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Wedge	6. 最初と最後の頁 24-26
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聡智	4. 巻 30巻7号
2. 論文標題 官僚叩きをする前に必要な公文書管理制度の検証: 公文書の管理・公開制度を見直し公益を守れ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Wedge	6. 最初と最後の頁 8-10
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聡智	4. 巻 56巻11号
2. 論文標題 サハリン訪問記	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 公研	6. 最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 門井慶喜・奈良岡聡智	4. 巻 715号
2. 論文標題 対談 建築から見える日本の近代史。	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 潮	6. 最初と最後の頁 106-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聡智	4. 巻 97巻3号
2. 論文標題 北方領土交渉とサハリン	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 文藝春秋	6. 最初と最後の頁 82-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 門井慶喜・奈良岡聡智	4. 巻 719号
2. 論文標題 対談 大磯の別荘建築がもつ現代的意義。	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 潮	6. 最初と最後の頁 60-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川島真	4. 巻 22号
2. 論文標題 中国の第一次世界大戦参戦 対ドイツ抗議・断交を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東アジア近代史	6. 最初と最後の頁 29-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川島真	4. 巻 615号
2. 論文標題 近代中国における『独立』 軍事・安全保障からの視点	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東亜	6. 最初と最後の頁 92-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川島真	4. 巻 29号
2. 論文標題 時間軸から見る公文書とアカウントビリティー公文書作成現場、外交文書の意義、移行期正義	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アーカイブズ学研究	6. 最初と最後の頁 51-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保田裕次	4. 巻 22号
2. 論文標題 第一次世界大戦期の勝田主計 正貨問題・「日支親善」・戦後構想	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東アジア近代史	6. 最初と最後の頁 6-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保田裕次	4. 巻 -
2. 論文標題 国際関係の漢冶萍公司 以日本の動向為中心	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 尚平・張強主編『第二届漢冶萍国際学術研討会論文集(中国・武漢)』(武漢出版社)	6. 最初と最後の頁 308-318
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保田裕次	4. 巻 -
2. 論文標題 近代日本与萍郷煤砒	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『第三届漢冶萍国際学術研討会(中国・萍郷)論文集』	6. 最初と最後の頁 281-292
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梶原克彦	4. 巻 第45巻第1・2合併号
2. 論文標題 第一次世界大戦におけるドイツ兵捕虜と アルザス=ロレーヌ人 の解放問題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 愛媛法学会雑誌	6. 最初と最後の頁 83-100
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 梶原克彦(編)	4. 巻 -
2. 論文標題 『『海南新聞』松山俘虜収容所関連記事集成 大正三年八月~十二月』(愛媛大学グローバル地域研究ユニット)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛媛大学グローバル地域研究ユニットGLOCAS Series	6. 最初と最後の頁 1-95
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計29件（うち招待講演 17件 / うち国際学会 9件）

1. 発表者名 奈良岡聡智
2. 発表標題 「政界の奥座敷」大磯の別荘群からみた近代史 伊藤博文から吉田茂まで
3. 学会等名 国登録文化財登録記念七賢堂特別開扉講演会（大磯町郷土資料館・県立大磯城山公園共催、2019年9月23日）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奈良岡聡智
2. 発表標題 第一次世界大戦期ベルギーにおける日本人抑留者問題
3. 学会等名 第4回東アジア日本研究者協議会（2019年11月2日、於台湾大学）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奈良岡聡智
2. 発表標題 対華二十一ヵ条要求研究の現状と課題
3. 学会等名 日本国際問題研究所2019年度第7回東アジア史検討会（2019年12月4日）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 梶原克彦
2. 発表標題 第一次世界大戦とオーストリア兵捕虜の処遇問題
3. 学会等名 第4回東アジア日本研究者協議会（2019年11月2日、於台湾大学）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 梶原克彦
2. 発表標題 東欧の体制転換とオーストリア
3. 学会等名 東欧史研究会シンポジウム「越境する人々の東欧史 ポスト社会主義をふりかえる」(2019年11月16日、於明治学院大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shin Kawashima
2. 発表標題 Re-thinking “ Washington System ” and historical dynamism in East Asia
3. 学会等名 JIIA-Stanford Symposium: “ The Past, Present, and Future International Order in East Asia ” at Stanford University , May 10, 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川島真
2. 発表標題 联合国和国际連合 日本如何看待联合国的形成
3. 学会等名 「第三届中国近现代史工作坊」(第三場、中国・天津・南開大学歴史学院、2019年9月6 - 8日)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川島真
2. 発表標題 圍繞對 “ 大正民主主義 ” 的解釋變化之介紹
3. 学会等名 2019年「自由、民主、人權與近代東亞:以臺灣為中心」第一屆報告會(於:東京大学駒場キャンパス、2019年10月16日)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川島真
2. 発表標題 「和解」の観点から見た戦後日中・日台関係史－日韓関係との比較の視座－
3. 学会等名 第4回歴史和解のための韓日フォーラム（主催：東北アジア歴史財団、於：韓国・ソウル・フレイザープレイスセントラルソウル、2019年12月14日）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shin Kawashima
2. 発表標題 History problem and trial to reconciliation between Japan and China
3. 学会等名 Joint Japanese-Polish History Symposium at University of Warsaw/Japan Embassy to Poland, March 10th, 2020（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 KUBOTA Yuji
2. 発表標題 The activities of Meiji Bunka Kenyukai (the Society for Meiji Cultural Studies) -How did Japanese intellectuals understand the meanings of the modernization of Japan?
3. 学会等名 国土館大学文学部訪問研究員セミナー（2019年6月7日、於国土館大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久保田裕次
2. 発表標題 近代日本の南進政策 第1次世界大戦期を中心に
3. 学会等名 第4回東アジア日本研究者協議会（2019年11月2日、於台湾大学）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奈良岡聡智
2. 発表標題 第一次世界大戦と「日露同盟」の時代
3. 学会等名 サハリン国立大学（ロシア）における講演会（2018年9月18日）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sochi Naraoka
2. 発表標題 The Meiji Restoration as Memory: Shifting from "Meiji 50th" to "Meiji 150th" Anniversary
3. 学会等名 Public lecture at Heidelberg University(November 21, 2018)（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 奈良岡聡智
2. 発表標題 記憶としての明治維新：「明治50年」から「明治150年」へ
3. 学会等名 ルーヴェン・カトリック大学（KU Leuven、ベルギー）における講演会（2018年11月28日）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 奈良岡聡智
2. 発表標題 第一次世界大戦と日本 対華二十一カ条要求、在欧居留民の動向を中心に
3. 学会等名 リール大学（フランス）における講演会（2018年11月29日）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 奈良岡聡智
2. 発表標題 大正デモクラシーの立役者・吉野作造の「明治」研究
3. 学会等名 第66回けいはんな「ゲ-テの会」(国際高等研究所、2018年12月21日)(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 奈良岡聡智
2. 発表標題 記憶としての明治維新 - 「明治50年」と「明治150年」のあいだで -
3. 学会等名 「東京で学ぶ京大の知」シリーズ30「明治150年 - 明治の歩みを考える - 」(「京都アカデミアフォーラム」in 丸の内、2019年1月31日)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奈良岡聡智
2. 発表標題 日本とマルタ - 第一次世界大戦期を中心に -
3. 学会等名 The International Workshop: "Prisoners of War and Civilian Internees from the viewpoint of East Asia" at Hilton Hotel Malta(March 18, 2019)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奈良岡聡智
2. 発表標題 第二次世界大戦後のサハリンで監視生活に置かれた残留日本人について
3. 学会等名 The International Workshop: "Prisoners of War and Civilian Internees from the viewpoint of East Asia" at Hilton Hotel Malta(March 19, 2019)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sochi Naraoka
2. 発表標題 Guardians of the Mediterranean : the Japanese Navy during the First World War
3. 学会等名 Public Lecture at Dipartimento Istituto Italiano di Studi Orientali (ISO) di Sapienza Universita di Roma, Italy(March 20, 2019) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sochi Naraoka
2. 発表標題 Guardians of the Mediterranean : the Japanese Navy during the First World War
3. 学会等名 Public Lecture at Universia degli Studi di Napoli "L'Orientale", Italy(March 21, 2019) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sochi Naraoka
2. 発表標題 Guardians of the Mediterranean : the Japanese Navy during the First World War
3. 学会等名 Public Lecture at Dipartimento di Scienze Politiche, Italy(March 22, 2019) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川島真
2. 発表標題 近代日中関係史のCRITICAL JUNCTURE 21か条要求・満洲事変・日華平和条約
3. 学会等名 20世紀アジアを振り返る 国際関係と国家建設の視点から (日本国際問題研究所主催、於：国際文化会館(東京都港区)、2018年7月6日)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shin Kawashima
2. 発表標題 China's View of the World Order and Recent Trilateral Relations Among Japan, US and China
3. 学会等名 カザフスタン国立ナザルバエフ大学人文法科大学（アスタナ、カザフスタン）における講演会（2018年10月8日）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shin Kawashima
2. 発表標題 China's Nation Building and Critical Junctures of Modern Sino-Japanese Relations
3. 学会等名 20世紀アジアの歴史国際共同研究シンポジウム（於：ハーバード大学（マサチューセッツ、米国）、2018年10月12日）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川島真
2. 発表標題 日中「歴史和解」過程から見る日韓関係
3. 学会等名 第2回歴史和解のための韓日フォーラム（於：メイフィールドホテル（ソウル・韓国）、2018年12月16日）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久保田裕次
2. 発表標題 近代日本与萍鄉煤砵
3. 学会等名 第三届漢冶萍國際學術研討会（中国・萍鄉、2018年11月2日）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Katsuhiko Kajiwara
2. 発表標題 German Prisoners of War As “Military Immigrant” and the Meaning of an Occupation: A Forced Global Migration and Subsistence in Locality
3. 学会等名 XIX ISA(International Sociological Association) World Congress of Sociology at Metro Toronto Convention Center(Toronto/Canada, July 18, 2018) (招待講演)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 門井慶喜・奈良岡聰智	4. 発行年 2020年
2. 出版社 潮出版社	5. 総ページ数 256
3. 書名 誰かに教えたいくなるレトロ建築の話	

1. 著者名 松尾秀哉・近藤康史・近藤正基・溝口修平(編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 479
3. 書名 教養としてのヨーロッパ政治	

1. 著者名 川島真・中村元哉編著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 440
3. 書名 中華民国研究の動向 中国と日本の中国近代史理解	

1. 著者名 何迪（主編）・徐家寧・王苗・于鉄軍（以上副主編）・薩蘇・左軍・劉莉生・川島真編輯	4. 発行年 2019年
2. 出版社 中国書局	5. 総ページ数 325
3. 書名 中日関係180年	

1. 著者名 五百旗頭薫・奈良岡聰智	4. 発行年 2019年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 286
3. 書名 日本政治外交史	

1. 著者名 波多野澄雄・戸部良一・松元崇・庄司潤一郎・川島真	4. 発行年 2018年
2. 出版社 新潮社	5. 総ページ数 288
3. 書名 決定版 日中戦争	

1. 著者名 河原地英武・平野達志訳著、家近亮子・川島真・岩谷将監修	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 337
3. 書名 日中戦争と中ソ関係ー1937年ソ連外交文書 邦訳・解題・解説	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	梶原 克彦 (Kajiwara Katsuhiko) (10378515)	愛媛大学・法文学部・教授 (16301)	
研究分担者	久保田 裕次 (Kubota Yuji) (70747477)	国士舘大学・文学部・講師 (32616)	
研究分担者	川島 真 (Kawashima Shin) (90301861)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授 (12601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関